

バスケットボール戦評記入用紙

大会 平成30年度 関東高等学校バスケットボール大会 埼玉県予選会
 日時 5月18日 金曜日 第1試合 時刻 10:00
 記入者名 津留崎 治子

A チーム	得点		得点	B チーム	
市立川越 高校	55	()	正智深谷 高校	

<戦評>

- 第1P 両者マンツーマンディフェンス。前大会でもベスト4を賭けて戦った2チーム、関東大会への出場権獲得はどちらが勝ち取るか。市立川越#6のドライブが先制点となる。正智は#4と#5のドライブで攻撃を仕掛ける。序盤、お互い流れよくオフェンスを展開するが、テンポ良く得点には繋がらない。正智はポストプレーの合わせや#8のドライブによる得点。市立川越は#4#14のジャンプシュートで得点する。正智の連続得点があり、13-17で正智リードで終了。
- 第2P 出だし、正智のドライブに対して、ファウルが重なり、市立川越は開始1分でタイムアウトを請求。また開始2分で正智#6が負傷のためベンチに下がる。膠着状態から市立川越#9のジャンプシュートが決まり、#7のターンシュートで連続得点、正智も#4#5のフリースローを決め返すが、市立川越#6の速攻や#4のジャンプシュートが決まり、同点に並んだところで、正智はタイムアウト。正智の#8がドライブからファウルをもらったり、ジャンプシュートを決め、また流れを取り戻す。24-27で正智リードで前半終了。
- 第3P 後半流れを持ち込んだのは市立川越。#7の3Pや#4ドライブジャンプシュートが決まり、逆転する。その後は一進一退の攻防が続く、終盤正智#4がミドルに走り込んだプレーで得点し、速攻も含め3連続得点で波に乗る。36-43残り1分47秒で市立タイムアウト。3P終了直近で市立#4の3Pが入り、39-43正智リードで終了する。
- 第4P 序盤、正智は1年生ガード#14のドライブが2本決まる。6点差と離されそうになるが、#4の個人技からのジャンプシュートや#6の3Pなど、これまで接戦を制してきた市立の勝負強さが光り、1点差に詰める。46-47残り5分正智がタイムアウト。お互い粘り強いディフェンスやリバウンドの攻防などハッスルプレーが続く中、正智#4が負傷でベンチに下がる。市立#4の連続得点、正智は#5のドライブやターンシュートで返し、50-52残り1分31秒市立タイムアウト。試合の終盤、苦しい時間帯、市立#14がファウルをもらいフリースローで1点詰め、#4の速攻で逆転する。正智はすぐさまタイムアウト。残り45秒。誰もが手に汗握る好ゲーム。正智#5がゴール下を連続で外し、相手にチャンスが流れると思ったが、パスカットから速攻で#5がしっかり決め、逆転54-53残り21秒市立タイムアウト。時間のない中、#14の落ち着いたパス回しで、エースの#4がジャンプシュートを決め、残り9秒で逆転。正智タイムアウト。スローインプレーから始まり、残り2秒で#8がノーマーク。しっかりシュートを決め、55-56で正智深谷が関東大会の出場権を得た。